

平成25年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	広島大学	整理番号	S03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) おち みつお 氏名・職名 越智 光夫 (広島大学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) みやたに まこと 氏名・職名 宮谷 真人 (広島大学理事・副学長(教育・東千田担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) おかはし ひでのり 氏名・職名 岡橋 秀典 (広島大学文学研究科教授)		
4. 類型	S<複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	たおやかで平和な共生社会創生プログラム	
	英語名称	Taoyaka Program for creating a flexible, enduring, peaceful society	
	副題	オンサイト・リバースイノベーションを推進するリーダー	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(文学)、博士(学術)、博士(国際協力学)、博士(工学)、博士(理学)、博士(農学)、博士(教育学) 付記する名称:たおやかで平和な共生社会創生プログラム		
7. 主要分科	((① 地域研究)) ((② 土木工学)) ((③ 電気電子工学)) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	((①)) ((②)) ((③)) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	<u>文学研究科・人文学専攻</u> 、 <u>総合科学研究科・総合科学専攻</u> 、 <u>国際協力研究科・開発科学専攻</u> 、 <u>教育文化専攻</u> 、 <u>先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻</u> 、 <u>量子物質科学専攻</u> 、 <u>分子生命機能科学専攻</u> <u>工学研究科・システムサイバネティクス専攻</u> 、 <u>社会基盤環境工学専攻</u> 、 <u>機械物理工学専攻</u> <u>教育学研究科・教育学習科学専攻</u> 、 <u>生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻</u>		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

14. プログラム担当者の構成 計 57 名					
外国人の人数		11 人	[19.3 %]	女性の人数	
				5 人 [8.5 %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [71.9 %]					
プログラム実施大学に属する者			41 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			36 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				12 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
(プログラム責任者) 宮谷 真人	ミヤタニ マコト		理事・副学長(教育・東千田担当)	認知心理学 博士(心理学)	プログラムの総括
(プログラムコーディネーター) 岡橋 秀典	オカハシ ヒデアキ		文学研究科・人文学専攻・教授	人文地理学 博士(地理学)	3コースの総括 文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
友澤 和夫	トモザワ カズオ		文学研究科・人文学専攻・教授 併 現代インド研究センター長	人文地理学 博士(文学)	文化創生コース主任 文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
河西 英通	カニシ ヒデミチ		文学研究科・人文学専攻・教授	日本史 博士(文学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
Maharjan, Keshav Lal	マハラジャン ケシャブ ラル		国際協力研究科・教育文化専攻・教 授	南アジア地域研究 農学博士	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
関 恒樹	セキ コウキ		国際協力研究科・教育文化専攻・准 教授	文化人類学 博士(文学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
外川 昌彦	トガワ マサヒコ		東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研 究所・准教授	文化人類学 Ph. D 博士(社会学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
Funck, Carolin	フンク カロリン		総合科学研究科・総合科学専攻・教 授	観光地理学 Dr. rer. nat	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
熊原 康博	クマハラ ヤスヒロ		教育学研究科・教育学学習科学専攻・ 准教授	自然地理学 博士(文学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
太田 淳	オオタ アツシ		慶應義塾大学・経済学部・准教授	歴史学 博士(文学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
金子 慎治	カネコ シンジ		国際協力研究科・開発科学専攻・教 授	環境資源経済学 博士(工学)	社会実装コース主任 社会実装コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
張 峻屹	チョウ シュンキツ		国際協力研究科・開発科学専攻・教 授	都市・交通計画 博士(工学)	社会実装コース(専門科目) 「どこでもフィールド」
藤原 章正	フジワラ アキマサ		国際協力研究科・開発科学専攻・教 授	交通工学 博士(工学)	プログラムサブコーディネーター 社会実装コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
吉田 雄一郎	ヨシタ ユウイチロウ		国際協力研究科・開発科学専攻・教 授	開発マクロ経済 Ph. D Economics	社会実装コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
川野 徳幸	カワノ ノリユキ		平和科学研究センター・教授 併 国際 協力研究科・開発科学専攻・教授	平和学 博士(医学)	社会実装コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
河合 研至	カワイ ケンシ		工学研究科・社会基盤環境工学専 攻・教授	コンクリート工学 工学博士	社会実装コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
大橋 晶良	オハシ アキラ		工学研究科・社会基盤環境工学専 攻・教授	水環境工学 博士(工学)	社会実装コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
市橋 勝	イチハシ マサル		国際協力研究科・開発科学専攻・教 授	経済学 博士(理学)	社会実装コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
後藤 大策	ゴトウ ダイサク		国際協力研究科・開発科学専攻・准 教授	応用ミクロ経済学 博士(経済学)	社会実装コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
川田 恵介	カワタ ケイスケ		国際協力研究科・開発科学専攻・准 教授	経済学 博士(経済学)	社会実装コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
塚井 誠人	ツカイ マコト		工学研究科・社会基盤工学専攻・准 教授	地域計画・統計解 析 博士(工学)	社会実装コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
久保田 徹	クボタ テツ		国際協力研究科・開発科学専攻・准 教授	建築都市環境工学 博士(工学)	社会実装コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
Tran Dang Xuan	チャン ダン スアン		国際協力研究科・開発科学専攻・准 教授	農業生物学、植物 科学 博士(農学)	社会実装コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
石井 抱	イシイ イダク		工学研究科・システムサイバネティ クス専攻・教授	センシング工学 博士(工学)	技術創生コース主任 技術創生コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
三浦 道子	ミウラ ミチコ		HiSIM研究センター・特任教授	デバイス物理 理学博士	技術創生コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
東 清一郎	ヒガシ セイイチロウ		先端物質科学研究科・半導体集積科 学専攻・教授	半導体工学 博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成27年度における役割)
Mattausch, Hans Jurgen	マタウシュ ハンス ユルゲン		ナノデバイス・バイオ融合科学研究所・教授 併 先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	集積回路工学博士	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
横山 新	ヨコヤマ シン		ナノデバイス・バイオ融合科学研究所・教授 併 先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	半導体工学工学博士	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
角屋 豊	カドヤ ユカ		先端物質科学研究科・量子物質科学専攻・教授	光エレクトロニクス博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
辻 敏夫	ツジ トシオ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	生体工学工学博士	技術創生コース(専門科目) 「どこでも医療」フィールド
西崎 一郎	ニシザキ イチロウ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	システム工学博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
餘利野 直人	ヨリノ ナオト		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	電力システム工学工学博士	技術創生コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
高橋 勝彦	タカハシ カツヒコ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	経営工学工学博士	技術創生コース(専門科目) 「ユビキタス交通」フィールド
山本 透	ヤマモト トオル		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	制御工学博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
高木 健	タカキ タケシ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・准教授	ロボット工学博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「観て測る防災社会」フィールド
造賀 芳文	ゾウガ ヨシフミ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・准教授	電力システム工学博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「あかり教育」フィールド
栗田 雄一	クリタ ユウイチ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・准教授	人間工学博士(工学)	技術創生コース(専門科目)
松村 幸彦	マツムラ ユキヒコ		工学研究科・機械物理工学専攻・教授	エネルギー学博士(工学)	技術創生コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
加藤 純一	カトウ ジュンイチ		先端物質科学研究科・分子生命機能科学専攻・教授	応用微生物学・生物工学 農学博士	技術創生コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
山本 民次	ヤマモト タミジ		生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻・教授	環境動態解析博士(農学)	技術創生コース(専門科目) 「公正な資源管理システム」フィールド
相田 美砂子	アイダ ミサコ		理事・副学長(大学改革担当)、理学研究科・化学専攻・教授	量子化学・生物物理学博士	学生キャリア支援
中矢 礼美	ナカヤ レイミ		国際協力研究科・教育文化専攻・准教授	比較国際教育学博士(教育学)	文化創生コース(専門科目) 「オンサイト・メディア」フィールド
櫻井 里穂	サクライ リホ		教育開発国際協力研究センター・准教授 併 国際協力研究科・教育文化専攻・准教授	教育開発・国際比較教育学博士(教育理論政策学)	教育モデル化と移転事業
Eaton, David	イートン デービッド		テキサス大学オースティン校リンドンジョンソン公共政策大学院・教授	合意形成 Ph.D(環境工学・地理学)	リーダーシップ手法(共通科目) プロフェッショナルメンター
Nurjahan, Begum	ヌルジャハン ベグム		グラミンシャクティ・マネージングディレクター	マイクロファイナンス、社会開発修士(経済学)	バングラデシュ拠点支援 プロフェッショナルメンター
Dhital, Ram Prasad	デイトール ラム プラサド		ネパール代替エネルギー促進庁・代表執行責任者	再生可能エネルギー開発修士(理学)	ネパール拠点支援 プロフェッショナルメンター
Virji, Hassan	ヴァーヂィ ハッサン		International START Secretariat・事務局長	気候変動リスク管理等の統合的研究 Ph.D(気象学)	教育モデル化・移転事業 「観て測る防災社会」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
Aquitania, Victorino	アキタニア ヴィクトリーノ		ICLEI・東南アジア地域事務所長	行政学 行政学修士	インド拠点設置支援 プロフェッショナルメンター
岡本 卓慈	オカモト タクジ		株式会社計測リサーチコンサルタント・代表取締役社長	計測工学 工学士	「観て測る防災社会」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
川本 一之	カワモト カズユキ		株式会社中国新聞社・特別顧問	マスメディア、企業経営 文学士	「オンサイト・メディア」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
山田 守	ヤマダ マモル		マイクロンメモリ ジャパン株式会社・ヒューマンリソース・GA & トレーニングマネージャー	半導体製造工学修士	「どこでも医療」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
森山 昌幸	モリヤマ マサユキ		株式会社バイタルリード・代表取締役	地域計画 博士(工学)	「ユビキタス交通」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
藤山 浩	フジヤマ コウ		島根県中山間地域研究センター・研究統括監 島根県立大学連携大学院・教授	中山間地域マネジメント 博士(マネジメント)	「どこでも医療」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
池田 修一	イケダ シュウイチ		独立行政法人国際協力機構中国国際センター・所長	開発援助 修士(環境科学)	「公正な資源管理システム」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
畑野 浩朗	ハタノ ヒロアキ		中国経済産業局長	地域経済 学士(経済学)	「あかり教育」フィールド支援支援 プロフェッショナルメンター
羅 黄順	ロウ ヨウジュン		スマートセンシス社・社長	モニタリング工学 博士(工学)	「観て測る防災社会」フィールド支援 プロフェッショナルメンター
白川 勝信	シラカワ カツノブ		広島県北広島町教育委員会・主任学芸員	生態学 博士(学術)	オンサイト教育支援 プロフェッショナルメンター

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 *(今後の募集予定: 有・無)
プログラム募集定員数(実数)		人	18人	18人	18人
① 応募学生数		人	53人	34人	32人
	うち留学生数	人	48人	32人	25人
	うち自大学出身者数	人(人)	6人(4人)	6人(4人)	3人(0人)
	うち他大学出身者数	人(人)	47人(44人)	28人(28人)	29人(25人)
	うち社会人学生数	人(人)	42人(39人)	28人(28人)	17人(15人)
	うち女性数	人(人)	19人(17人)	11人(11人)	14人(11人)
② 合格者数		人	18人	16人	15人
	うち留学生数	人	14人	14人	9人
	うち自大学出身者数	人(人)	6人(4人)	6人(4人)	3人(0人)
	うち他大学出身者数	人(人)	12人(10人)	10人(10人)	12人(9人)
	うち社会人学生数	人(人)	12人(10人)	12人(12人)	5人(4人)
	うち女性数	人(人)	6人(5人)	5人(5人)	7人(4人)
③ ②のうち受講学生数		人	18人	16人	13人
	うち留学生数	人	14人	14人	9人
	うち自大学出身者数	人(人)	6人(4人)	6人(4人)	3人(0人)
	うち他大学出身者数	人(人)	12人(10人)	10人(10人)	10人(9人)
	うち社会人学生数	人(人)	12人(10人)	12人(12人)	5人(4人)
	うち女性数	人(人)	6人(5人)	5人(5人)	5人(4人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)		0.00倍	2.94倍	2.13倍	2.13倍
充足率(合格者数/募集定員)		0.00%	100.00%	89.00%	83.00%

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成28年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度	平成30年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成25年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成26年度選抜							14	4				18	7	7	4			18	7	7	4			18		
うち留学生数							10	4				14	5	5	4			14	5	5	4			14		
うち自大学出身者数							2	4				6	0	2	4			6	0	2	4			6		
うち他大学出身者数							12	0				12	7	5	0			12	7	5	0			12		
うち社会人学生数							10	2				12	5	5	2			12	5	5	2			12		
うち女性数							4	2				6	1	3	2			6	1	3	2			6		
平成27年度選抜													12	4				16	4	7	4			15		
うち留学生数													10	4				14	4	5	4			13		
うち自大学出身者数													2	4				6	0	2	4			6		
うち他大学出身者数													10	0				10	4	5	0			9		
うち社会人学生数													8	4				12	3	4	4			11		
うち女性数													4	1				5	2	2	1			5		
平成28年度選抜																			11	2				13		
うち留学生数																			8	1				9		
うち自大学出身者数																			3	0				3		
うち他大学出身者数																			8	2				10		
うち社会人学生数																			4	1				5		
うち女性数																			3	2				5		
計	0	0	0	0	0	0	14	0	4	0	0	18	19	7	8	0	0	34	15	14	13	4	0	46		
うち留学生数																								36		
うち自大学出身者数																								15		
うち他大学出身者数																								31		
うち社会人学生数																								28		
うち女性数																								16		
修了者数(予定者を含む)									0						0						0				4	11
就職者数									0						0											
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数									0						0						0					

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度	平成30年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成25年度選抜					0					0					0					0		
	うち留学生数				0					0					0					0		
	うち自大学出身者数				0					0					0					0		
	うち他大学出身者数				0					0					0					0		
	うち社会人学生数				0					0					0					0		
うち女性数				0					0					0					0			
平成26年度選抜										0					0					0		
	うち留学生数									0					0					0		
	うち自大学出身者数									0					0					0		
	うち他大学出身者数									0					0					0		
	うち社会人学生数									0					0					0		
うち女性数									0					0					0			
平成27年度選抜															0					0		
	うち留学生数														0					0		
	うち自大学出身者数														0					0		
	うち他大学出身者数														0					0		
	うち社会人学生数														0					0		
うち女性数														0					0			
平成28年度選抜																				0		
	うち留学生数																			0		
	うち自大学出身者数																			0		
	うち他大学出身者数																			0		
	うち社会人学生数																			0		
うち女性数																			0			
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	うち留学生数																				0	
	うち自大学出身者数																				0	
	うち他大学出身者数																				0	
	うち社会人学生数																				0	
うち女性数																				0		
修了者数(予定者を含む)																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、これまで行われてきた画一的教育の反省から生まれた。学生の個性が尊重され、学生が自らの可能性を見出し、様々な形で社会へ貢献していく道筋を発見していく手段として、複合的な視点でのみ解が見つけられる多文化共生をターゲットとした。これにより、広島大学が強みをもつ人文・社会系の分野と科学技術分野を融合し、文化が牽引する「たおやかで平和な共生社会創生」に貢献できる人材を養成する。時間と空間の広がりによって多様に育まれた 地域独自の社会と文化を深く理解し、それをふまえて地域が抱える課題の克服のために、必要な先端科学技術をその地で見出し(開発し)、育む(社会実装する)教育 を実施する。このため、実際に 文化を育んできた地に寄り添ったフィールドワークを骨格とした提案支援型教育 を実施する。輩出される学生は、多角的思考、自主性、具現化する実行力、無から生み出す創造力 を兼ね備える。これらはあらゆる社会でリーダーに求められる素養と考える。

本プログラムは、「戦争」や「核」といったキーワードで これまで築かれてきた広島大学の平和教育をさらに広い分野へ と拡大・発展させ、平和を希求する大学の継続的取組の一環に位置づけられる。文化の自立・発信は単に共生に留まらず、異なる文化の相互作用によるシナジー効果を生み出し、また先端科学技術と地域文化とをシンクロさせることによって、従来とは異なる形の新たな産業創生にも結びつくと考える。

【特色】近年、いかに辺境の途上国の寒村深くに入り込もうとも携帯電話で通信する村人に出会い、小さな太陽電池パネルで発電されたわずかな電力でもあかりに変換できる LED 電球の普及によって、単調で危険な長い夜が豊かな文化を創生する有意義な時間になりつつある。先進国で開発された半導体を基盤とする先端科学技術が期せずして途上国の貧困社会をも劇的に変貌させる可能性を示している。こうした可能性を より困難な課題を抱える地域に寄り添い、そのニーズから発想してより効果的に社会を望ましい方向へ導くような課題解決型技術革新・社会創生のあり方が「オンサイト・リバーシブイノベーション」 である。

本プログラムでは、多様化する文化・社会への科学技術の解は一つではなく、それぞれの地域に見合った様々な技術が必要であるという立場をとる。これは、これまで先端科学技術開発が国際的な統一規格を目指してきたのとは対照的なスタンスである。その地の文化を理解するだけでなく常に新たな進化を遂げるための文化創生を繰り返しながら、適切な先端科学技術を確実に オンサイト・ソリューションへと適用・実装できる人材グループ を育てる。文化が先導する科学技術の発展に解決策を求め、これをグループとして具現化するため に不可欠な3つのタイプのリーダーを育成する。具体的には、(1)社会・環境変化や技術革新に適応するよう文化を創生する人材、(2)条件不利地域の文化と社会環境のおかれた課題に適応するよう科学技術を創生する人材、(3)創生される多様な地域文化と新たな科学技術が均衡するよう社会に実装する人材、である。そのために、博士課程 D1-2 では国内外の複数の条件不利地域を訪問し、博士課程 D3-5 では長期に現地滞在し、地域に寄り添ったフィールドワークを中心とする学習機会を提供する。この際に、文理を横断する異なる専門の学生で構成したグループを編成し、6つのプロジェクト課題の解決に取り組む。こうした人材は、国際政治・行政・教育においてたおやかな平和共生社会の実現に直接貢献するだけでなく、産業界におけるリーダーとしても活躍しうると考える。

【優位性】本学では1994年に国際協力研究科を発足させ、国際協調を促進する学問領域を先導し、グローバルなフィールド型実践教育を通して開発途上国の自立を育むリーダー育成に多くの実績を上げてきた。本プログラムはこの研究グループを核として、国内・外の地域文化・社会の研究に顕著な業績を有するグループと、半導体、情報通信分野で世界をリードしている理工学系グループを中心として推進する。

フィールドとしては、これまでに実績のある条件不利地域を取り上げる。国内では 中四国の過疎地域、国外では インドを中心とする南アジア を想定している。インドを中心とする南アジアは文化的にきわめて多様である一方で貧困や差別に苦しんでいるが、この地域に対して、平和を志向する広島大学のプレゼンスは既にきわめて高い。本プログラムではこれらの地に拠点を置き、広島との強力な連携を立ち上げる。

広島大学は2011年に半導体コンソーシアムを立ち上げて、様々な産業界との強力な連携を実施している。これを通して本プログラムで必要となる科学技術面からの支援のみならず、産業界の立場からの教育を担っていただく。学術研究支援グループの活動を通して、産業界と協力して日本発の国際標準化を数々実現してきている実績は本プログラムでも遺憾なく発揮される。また 平和を発信する地としての自他ともにある認識は、学生達が現地に赴いて活動する際に、大きな心のよりどころになる ことは自明である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

たおやかで平和な共生社会創生

世界の産・官・学へ
(国際機関・政府機関・産業界・大学/研究所)

オンサイト・リバーズイノベーションの推進リーダー

提案支援型教育の
世界への発信

文化を創生する人材 技術を創生する人材 文化と技術を融合し社会に実装する人材

